

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 12月 13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100243
法人名	社会福祉法人 真奉会
事業所名	グループホームあもり
所在地	鹿児島県霧島市隼人町内2075番地2 (電話) 0995-43-8700
自己評価作成日	平成30年12月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は霧島市の旧隼人町と旧溝辺町の境に近い場所にあり、遠くに霧島連山を仰ぐ景色の良い場所にあり、鹿児島空港や、嘉例川駅等の観光地や、温泉地にもほど近い。
今年、月1回の行事等でなるべく施設の外に出て、お弁当を食べるなど楽しんでいただく機会を設けた。
その他にも、施設周辺に花を植えたり、野菜を作ったりしており、利用者様と共に楽しんで頂くようにもしている。
人員不足の影響は少ないが、その中でも楽しんでいただくことを主とした取り組みが見られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム前は空港と霧島市隼人を結ぶ、幹線道路が通っている。霧島連山や緑豊かな自然に囲まれ、四季を感じることができる地区である。
地域は住民の高齢化が進み、協力体制にも難を要するようになってきたが、管理者や職員は、地域との関わりを増やそうと、ボランティアの受入れやホーム行事に参加をもらったり、近隣からは季節の野菜を頂いたり、地域との繋がりに取り組んでいる。
管理者は職員の理念に対する意識が少ないと感じた事から、現状に即した理念に内容を見直し事で、職員の意識度も上がりケアの実践に繋がっている。
利用者は車イスで移動する方が増えている中で、外出は難しくなってきたが、車イスを押しながら敷地内外の散歩や、初詣・花見・ドライブへと利用者が気分転換を図れるよう取り組んでいる。
管理者や職員は、利用者に笑顔で日々を楽しんでもらえるようにケアの実践に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	この一年、グループホームでのケアの在り方についてミーティング等を行った上で理念を変更し、施設内の目につくところに掲示している。	ホームの理念が、現状に合っているか職員全員がしっかりと意識しているかを目標達成計画に提示していた。管理者は現状に即した理念をと見直し作成し、職員と話し合い改めた。職員全員が理念を意識しケアの実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流などはないが、地域交流の必要性については少しずつ意識が出てきている。	運営推進会議への参加や、ホーム行事の敬老会へ地域のボランティアの参加やサマーボランティアの受入れも行っている。野菜の頂き物もある。地域住民の高齢化の中で交流は少なくなってきたが、職員から地域に関わっていきたくないと声がある等、地域との繋がり意識し、交流を図っていく事を検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通して、そのような理解や支援が行えることをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前と同様の会議を継続している。内容や参加者等の充実を図りたいが、うまくいっていない。	会議には行政・民生委員・自治会長等が参加し、利用者の状況や活動報告を行い、意見交換の場となっている。出された意見要望は職員と話し合い、サービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者に参加していただいている。	介護申請や相談など面会や電話で相談助言をもらっている。運営推進会議への参加や、市の担当者また生活福祉課とは日頃から繋がりは築かれている。行政主催の研修案内ももらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回の身体拘束委員会を行い、身体拘束の要否について検討している。今年は特に声掛けによる行動制限につながらないように勉強会などを行った。	身体拘束委員会を2ヶ月毎に行い研修し、職員には会議等で周知徹底している。職員の意識度も上がり「この場合はどうなるのか」等、全員で話し合い取り組んでいる。言葉による拘束は、繰り返し確認しており、日々傾聴に努める等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法そのものの勉強会は未開催であるが、身体拘束について学ぶ際に、虐待についても検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、各制度の活用が必要と思われるケースは無いため、時間を設けて勉強会を開催はしていない。今後、設けていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行った上で署名等をいただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会等の機会で行っていく。日程などの都合があわずなかなか開催できていないのが現状である。また、意見箱を設けており、ご家族ご訪問時にも意見交換を行うように努めている。</p>	<p>利用者からは日常会話や表情・しぐさ等から意見や要望の把握に努めている。家族からは面会時や運営推進会議、行事の時など、意見要望を聞き出すよう努めている。出された意見要望については、職員で検討し改善を図り運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングその他の機会において職員の意見等を聞いている。</p>	<p>管理者は日頃より話し易い雰囲気作りに努め、ミーティング時や申し送り時の対話、年2回の個人面談の時に意見や要望等の把握に努めている。出された要望等は、全員で話し合い業務や職場環境の改善やケアのサービス向上の反映に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人全体で、処遇改善の一環として人事考課を行っている。法人内の人事考課委員会に、当事業所からも参加しており、労働環境の改善を検討している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修などを受けるように勧めることがあるが、定期的な受講等には至っていない。今後、OJTなどの体制づくりを行っていく必要がある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>霧島市地域密着型事業者連合会や、県のグループホーム協議会に加盟しており、これらの団体の研修会に参加する機会がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時には特に関係性を築くことが重要であり、本人のお気持ちに沿えるよう、コミュニケーション作りに心掛けている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>上記と同様、ご家族様との関係性も重要である。入居後に関係性が途切れないように心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に十分に状況を伺い、ご本人、ご家族様のご要望やニーズを伺った上で初期の対応を行うようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>どちらかというといろいろなお世話を「してあげる」という視点が強いように感じられる。ご本人のできること、望む暮らしを十分に把握し、適切に支援できることを目指したい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも様々なご事情はあるが、可能な範囲で、例えば必要物品の購入や、一緒にお食事を摂ってもらう等、関係性を保つようになっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時等に、いつでも、ご近所の方等でも気軽にお越しくさるよう、お伝えしている。	入所以前からの馴染みの関係を把握し、電話の取次ぎや来訪時にはゆっくりと過ごせるよう配慮している。定期的に理容所が来訪される方もいる。家族には墓参りや一時帰宅の協力支援を頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者様への関わりを行う方については特に問題が無ければ制止するようなことは無い。今後は、関係性をより強め、支えあっていけるような関係性を築いていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後に他のサービス（施設）をすぐ利用するケースが多く、フォローアップまでは至っていないが、今後、ケアの継続性の観点から必要性があると考える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの強化に努めている。ご本人の意思が十分にわからない場合などは、ご本人の様子等から把握するように努める。	入所時に本人の思いや意向を把握している。ほとんどの利用者が意思表示出来るが、明確な意思表示が出来ない利用者には、日頃の会話や表情・しぐさから把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後からでも、折を見て情報を集め、アセスメントを深めていくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントに基づき、ご本人のできること等を実際にして頂く等して状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、周囲の関係者の意見をもとにプラン作成を行う。	利用者や家族の要望を聞き取り、職員間で情報を把握し、利用者や家族の意見を聞き、現状に即した介護計画書を作成している。定期的なモニタリングを行い、現状に変化があれば都度見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は行っており、それぞれが情報共有を行っている。プランに跳ね返るようなシステムづくりが十分にできていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どちらかといえば施設の時間に合わせてサービス提供を行っている要素が多い。個人の状況等に応じた柔軟な対応が必要である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご要望に応じて、外部のサービス（訪問マッサージ等）を導入したケースがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの往診や必要時の訪問が行われている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっているが、現状では利用者全員が協力医療機関で受診している。月1回の定期受診がある。他科受診は基本的には家族の同行であるが職員が同行する事もある。24時間の医療連携体制は家族や利用者の安心にも繋がる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関において、看護師等が常に相談や訪問をしてくださっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療機関の医師、看護師と日常的に情報交換を行っている。往診の他、必要時には電話連絡にて相談に乗ってもらい、または訪問していただいている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時から終末期の意思を書面にて伺えるようにしている。また、終末期に入ってきた場合は状態の変化その他必要時に方針をお聞きしている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針を作成し、入所時に本人や家族に説明し同意を得ている。事前意思確認書も明文化されている。終末期には、家族と関係者は状況に応じた話し合いを繰り返しながら、希望に沿った支援をしている。職員のスキルアップや不安の軽減の為の、研修計画を検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応については、勉強会などで定期的に行っているが、今後も更に継続していきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地理的に水害の直接的な被害は想定していないが、その他の災害時の訓練などを行っていきたい。</p>	<p>昼間想定を含む災害訓練を、年2回消防署立ち会いと自主訓練で実施している。大きな災害が予測される時には、職員を一人増やすなどの対策へも取り組んでいる。スプリンクラーや備蓄も確保されている。地域住民との協力体制の強化は今後の課題である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等の機会にプライバシーの尊重について意見交換や勉強会を行っている。	接遇やプライバシー保護等の研修の充実のため、日頃の接し方や声掛けなど具体的な内容を説明し、利用者には敬意をもって対応するように、職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の過ごし方は自由にしていただけていると思われるが、更に思いを引き出すような支援ができるようにしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設や職員の時間・タイミングでの声掛けが比較的多い。できること、やりたいことを自分の意思で行うことを周知したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日中の生活の中ではできていない部分もあるが、自由に選びたい方の制限は必要以上（季節感の無い服装等）には行っていない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食の方には、料理名を事前にお教えする等少しでも楽しんでもらえるように考えている。時々みんなで楽しむような食事を行っている。	調理担当職員が、その日の材料でメニューを決めている。季節の行事食や弁当持参で海、サンドウィッチを作り紅葉見学に、また花見でバーベキューを楽しむ事もある。家族支援で外食される利用者もいる等、食事を楽しむ事を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に消極的な利用者様には、強制とならないように、いろいろな飲み物を試すなど工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの向上のため歯科による定期往診を開始。スタッフの意識が変化してきており、口腔ケアも行われている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個別の動作や排泄パターン等を考慮し、尿取りパット等の選定を行っている。排泄も日中はなるべくトイレで行っていただけよう、時間誘導や声掛けを行う。	利用者との日常の関わりや、排泄チェック表の活用や、個々の排泄リズムを把握し、さり気ない声かけで誘導している。言葉かけを始め羞恥心や不安の軽減に努め、可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。職員の様子観察や細やかな誘導で、夜間もポータブルトイレの使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方には、主治医とも連携しながら服薬以外にも、水分摂取や、牛乳を飲んで頂く等の工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	施設の時間に合わせて入浴していただいている。入浴に際してはお声がけを行った上で、入りたい、入りたくない等の希望にはなるべく浴うようにしている。	利用者の健康状態や安全に配慮しながら、基本的には週3回午前中の入浴となっている。体調に合わせて清拭や足浴に変更される方もいる。入浴剤を使用し、湯船に浸かってもらっている。入浴後は水分補給や保湿クリームを塗るなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢化も考慮し、午睡の時間を設けるケースが増えている。また、ご自身で「横になりたい」という方にはご希望に沿えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	経験等により一定の知識はあるが、処方薬情報等にも目を通し、各自が理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	棟内の飾り作成等を行ってもらっている。また、これまでの生活の情報から、編み物等を行ってもらったこともあった。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日毎の外出はあまりできていないが、行事等で月1回程度は外出できるようにしている。今後は、個人にゆかりの場所等へも出かけられるようにしたい。	その日の天候や利用者も健康状態を把握しながら、日常的には敷地内の散歩や日光浴をしている。年間の外出計画には初詣・花見・ソーメン流した海辺へのドライブに出かけたり、可能な限り外出の機会を設けている。家族の協力支援で外出される方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望のある方については金銭を自己管理してもらったケースもあった。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自らが連絡を行えるような積極的な支援は行えていない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>現在、利用者が混乱するような環境は無いものと思われる。ホール（食堂）を中心として、季節感のある飾りつけ等を利用者と協力して行っている。</p>	<p>広く明るいリビングには、畳スペースもあり、利用者が横になったり、洗濯物をたたむ場ともなっている。壁には季節の飾り物や写真が貼られている。リビングからはテラスへ出られ、庭にある菜園は、利用者と一緒に耕し楽しんでいる。利用者が思い通りに過ごせる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間内でのスペースづくりにはもう少し工夫が必要である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者毎に差はあるが、馴染みの物等を持ち込んで頂き、心地よく過ごしていただけるようにしている。</p>	<p>入所前の馴染みの使い慣れた家具を持ち込んでもらっている。壁に写真を飾ったり、利用者や家族が居心地よく過ごせるよう工夫している。畳敷の居室もある。安全のために畳使用をされる方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全性やご本人の希望等を通して、必要に応じて畳敷きの部屋にする等の工夫を行っている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない